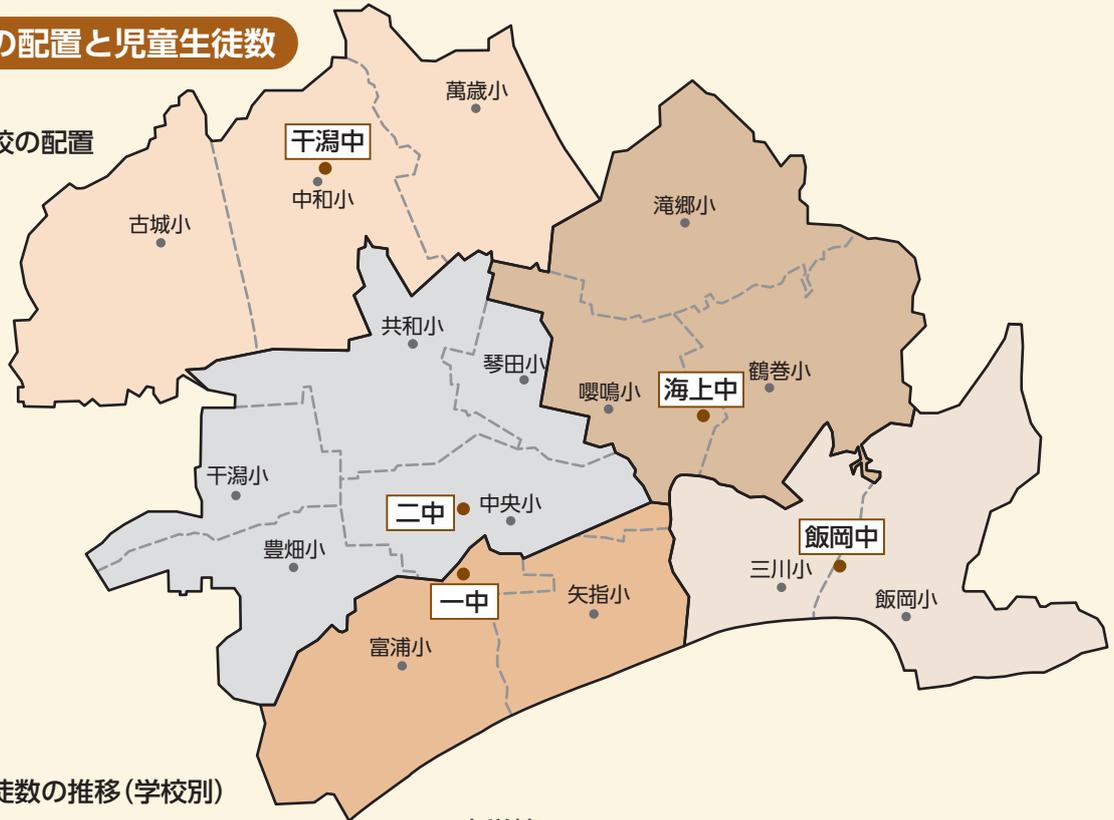


現在の学校の配置と児童生徒数

(図) 現在の学校の配置



(表1) 児童生徒数の推移(学校別)

小学校

(単位:人)

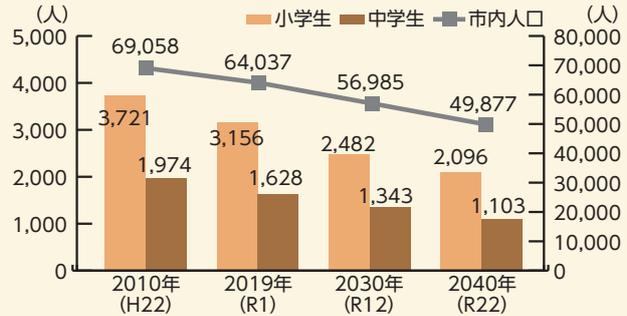
No.	小学校名	2019年 (令和元年5月)	2040年 (令和22年)	減少数
1	中央小	700	554	▲146
2	琴田小	157	126	▲31
3	干潟小	265	136	▲129
4	富浦小	180	111	▲69
5	矢指小	143	110	▲33
6	共和小	250	176	▲74
7	豊畑小	189	115	▲74
8	鶴巻小	112	92	▲20
9	滝郷小	92	59	▲33
10	嚶鳴小	357	211	▲146
11	三川小	186	136	▲50
12	飯岡小	208	107	▲101
13	中和小	120	44	▲76
14	萬歳小	76	46	▲30
15	古城小	121	73	▲48
合計		3,156	2,096	▲1,060

中学校

(単位:人)

No.	中学校名	2019年 (令和元年5月)	2040年 (令和22年)	減少数
1	一中	201	116	▲85
2	二中	810	585	▲225
3	海上中	263	189	▲74
4	飯岡中	222	128	▲94
5	干潟中	132	85	▲47
合計		1,628	1,103	▲525

(表2) 市内の人口、児童生徒の推移



※2030年、2040年の数値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に算出した推計値です。

問い合わせ先
庶務課施設班

☎ 55・5722

※文部科学省が示す適正配置と適正規模
 ●適正配置(児童生徒の通学条件や手段を考慮した学校の場所の目安)
 小学校ではおおむね4km以内、中学校では6km以内を基準としています。通学手段は徒歩やスクールバスなどがありますが、おおむね1時間以内が目安とされています。

●適正規模(一つの学校でバランスの取れた運営ができるクラス数の目安)
 小中学校ともに一つの学校に12〜18学級が標準とされています。これは児童生徒のグループ活動などの社会性と、クラス替えが可能ななどの運営面とのバランスを考慮したものです。

は先延ばしにしてはいけない問題です。
 このような状況の中、平成30年3月に「旭市学校のあり方検討委員会」から、学校の適正配置や適正規模についての提言書が提出されました。これは文部科学省が示す適正配置と適正規模に基づいて決定されたものです。提言書の内容は市ホームページでも見ることが出来ます。
 これを踏まえ、今年度から「旭市学校再編計画策定委員会」を設置して、学校の再編計画を策定しています。
 小学校や中学校は、将来を担う子どもたちが学び、成長するとても重要な施設です。現在抱える問題点や現状を知り、皆さんもこれからの学校の姿について考えてみませんか。

十月一日 日直あさピー

未来のごどもたちのために

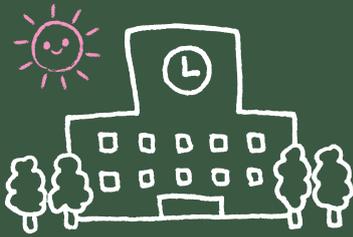
これからの学校のおはなし

今、日本は急速に少子化が進んでいます。

人口が減っていくと、子どもの数も少なくなり、学校の活気も失われてしまいます。

子どもたちの元気な笑顔と活気あふれる学校が、これからも続いていくように、学校の数や配置について考えなければなりません。

今回は市内の学校の現状と、再編に向けた取り組みを紹介します。



人口減少と今後の学校

全国で少子化が進む中、市の人口も現在の約6万9千人から、20年後には約22%減少し約5万人となることを見込まれています。これに伴い、児童生徒数も減少していくため、現在の学校数を今のまま維持していくことが、難しくなる予想されます。

児童生徒数の減少による学校の小規模化は、児童生徒一人一人に目が行き届くなどの良い面がある一方、クラス替えが難しく人間関係が固定化し、多様な考え方を学ぶ機会が少なくなったり、部活動などのさまざまな集団活動や学校行事などに、支障をきたしたりするなどの影響が考えられます。

今後、子どもたちの良好な教育環境や、学校施設の健全な維持管理を継続するためには、学校の再編を検討していかねばなりません。

児童生徒数と学校の現状

〈児童生徒数の推移〉

10年前に約5,700人だった児童生徒数は、現在約4,800人に減少し、さらに20年後には約3,200人となる見込みです。(表1・表2)

市内でもJRの沿線に人口が集中していく傾向にあり、学校の児童生徒数も偏りがさらに大きくなることが見込まれます。

〈学校の現状〉

市内には小学校15校、中学校5校がありますが、平成17年の合併前からの学校をそのまま引き継いでいる状況です。

校舎は古いもので昭和37年建築、新しいもので平成28年建築となっています。全て耐震工事を完了していますが、古い校舎が多いため、経年劣化によって雨漏りが発生するなど、20校の維持に年間約3億円の費用がかかっています。

限られた予算の中で、全ての学校を建て替えることは現実的に難しい状況です。

〈学校の配置〉

配置の面では、小学校は全体的にバランスが取れているといえますが、中学校を見ると一中と二中が極端に近い位置にあり、他の学校と比べるとバランスを欠いています。(図)

再編に向けての計画づくり

20年後の児童生徒数の推計を踏まえ、将来的に複数の学年が同一教室で学ぶ複式学級を、実施せざるを得ない学校が出てくると予想されます。さらに市の公共施設等総合管理計画では、市民の貴重な財産の一つである公共施設などを、次世代にしっかりと引き継ぐために、今後の公共施設の床面積を約20%縮減することを目標としています。

学習環境の不均衡を解消し、健全な施設の提供や、学校を支える地域基盤を継続的に維持していくために、学校の再編